

経済効率や経済成長を通して個人の効用（満足度）を上げていくのは大切なことです。ただ、日本の歴史を考えると、徳倫理の倫理観や共同体を重視する価値観も取り入れられることが重要な時期に来ているのではないのでしょうか。

日本の総人口を考えてみると、江戸時代はほぼ一定で明治維新後、爆発的に増え続けましたが、2004年をピークに減少し始めています。人口増加の背後には、欧米の科

やさしい こころと**経済学**

第2章 倫理観・価値観と絆 9

慶応義塾大学教授 大垣 昌夫

学技術知識に追いついて、国際的にも歴史的にも物質的に非常に豊かになっていく過程がありました。

この過程で多くの日本人が利己的な消費や余暇からの効用を最高の価値としていたとしても、大きな問題ではなかったと思います。イエやムラのような伝統的共同体が、経

済成長の障害となって崩壊していきましたが、個人の自由や多様性が重視されるようになる良い面もありました。

しかし、欧米に追いつき、人口減少が始まった今、重要性の高い課題は危機管理ではないのでしょうか。人口減少は少子高齢化とも密接に関連し、国の年金財政に危機をも

共同体を重視する時期

たらしめます。大災害の危機も多くなり、いつ自分が弱者の立場になるか分かりません。弱者を大切にすることは、共同体レベルでの利己性を防ぐことになり、孤独死などの問題が生じている今、家族や地域レベルでの共同体の再生がまず重要と考えられます。国が弱者を大切に、大震災後に多くの国々から被災者が援助を受けるなど、国レベルでの共同体の絆が強くなれば、利己主義に陥っていく

のを防ぐことができるのではないのでしょうか。

倫理観・価値観を見直し、多様性の中で的一致を求めて話し合い、弱者を中心にした新しい共同体を形成するとき、経済効率も重要となります。大災害で被災し支援を受ける場合、当初は生活のための支援が重要ですが、ある時点からは自立支援が求められるようになってきます。経済効率を無視した支援は自立を阻害する恐れがあります。